県民芸術祭50th ANNIVERSARY

渋川市民会館 50th Anniversary

県民芸術祭50周年記念・渋川市民会館開館50周年記念事業

令和8年度 ぐんま

伝統芸能の祭典

神楽　獅子舞　歌舞伎　人形芝居　篠笛　和太鼓

1/24 日

令和9年

渋川市民会館

渋川市渋川2795
大ホール・小ホール

伝統芸能公演(大ホール)　10:00-16:00(開場9:30)
ワークショップ (小ホール) 11:00-12:00

入場無料
(公演は要予約)

午前の部

10:00-10:30
群馬県立桐生清桜高等学校 和太鼓部
和太鼓演奏

10:40-11:20
藤舎秀緋・中島 一樹
篠笛演奏

11:20-13:00 休憩

11:00-12:00 ワークショップ

午後の部

13:00-14:00
渋川子ども歌舞伎
「仮名手本忠臣蔵七段目
祇園一力茶屋の場」

14:30-15:40
しぶかわ若手花形歌舞伎
「鎌倉三代記 絹川村閑居の場」

観覧予約・お問合せ

電話またはwebフォームよりお申し込みください

(公財)群馬県教育文化事業団 事業支援課
☎ 027-243-7200
webフォーム
〒371-0801　前橋市文京町2-20-22
受付時間 8:30~17:00
日曜・月曜・祝日および
月曜祝日の場合は翌火曜日を除く

渋川市民会館
☎ 0279-24-2261
受付時間 9:00~17:00
休館日を除く

※プログラムの記載時間は目安です。
※当日お席に余裕があれば予約がなくてもご観覧いただけます。

参加無料・予約不要
ワークショップのみの参加もOK

同日小ホールにて開催！

神楽・獅子舞・人形芝居ワークショップ

講師　下南室太々御神楽保存会、常将神社太々神楽保存会、行幸田獅子舞保存会、津久田人形操作伝承委員会櫻座

伝統芸能に触れてみよう！

見る



今も群馬県で継承されている
伝統芸能を鑑賞しよう！

作る



ダンボールでオリジナルの
狐のお面と獅子頭を作ろう！

体験する



本物の狐面や獅子頭を身に付けたり
人形の操作を体験してみよう！

出演者と講師のプロフィールは裏面をご覧ください

主催：第50回県民芸術祭実行委員会、群馬県、公益財団法人群馬県教育文化事業団
共催：公益財団法人渋川市まちづくり財団
協力：NPO法人ぐんま郷土芸能助っ人塾
後援：群馬県教育委員会、渋川市教育委員会、上毛新聞社

協賛企業

都道府県民共済グループ
群馬県民共済

出演者



桐生清桜高等学校 和太鼓部

現在、2年生13人、1年生12人の計25人で活動しています。主な活動内容は、各種コンクールへの出場、地域のお祭りやイベントへの出演、福祉施設やこども園などへの訪問演奏です。応援してくださるすべての方々へ感謝の気持ちを込めて、「笑顔で楽しく全力で」をモットーに、日々の練習と演奏活動を行っています。また、例年、部員の大半が入学してから始めています。初心者から始めた高校生が全国大会に挑戦する青春漫画のような熱い部活動です。



藤舎 秀緋

群馬県沼田市生まれ。これまで笛を人間国宝 藤舎秀蓬に、囃子を藤舎千穂に、長唄三味線を岡安喜九野、東音新井康子に師事。東京藝術大学卒業。令和4年より、芸術を通して沼田市の魅力を発信する「ヌマタ・アート・アンバサダー」に就任。東京オリンピックイベントへの演奏収録参加や、NHKドラマ「大奥」、大阪・関西万博開会式での演奏など、全国の演奏会等に出演。また関東圏内での笛指導も精力的に行っている。



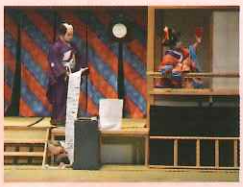
中島 一樹

平成5年生まれ。群馬県高崎市出身。囃子を藤舎呂英師に、清元節を清元清美太夫師に師事。現在、長唄公演や舞踊会、歌舞伎巡業公演等に出演し、研鑽を積んでいる。令和7年大阪・関西万博開会式や宝塚歌劇団111周年記念式典にて演奏。NHK「芸能きわみ堂」、大河ドラマ「豊臣兄弟！」等に出演するほか、テレビ東京「THEカラオケ★バトル」にも出演するなど、幅広く活動している。慶應義塾大学卒業。東京藝術大学別科修了。現在、東京藝術大学音楽学部邦楽科研究助手。



しぶかわ若手花形歌舞伎

各座とも座員の高齢化や人員の減少がみられる中、渋川市の若手を中心に令和6年5月に発足した地芝居団体。平均年齢27歳(令和6年)。渋川市の伝統ある地芝居を継承すべく毎月4回、渋川中央公民館にてお稽古に励んでおります。上毛新聞社や、フジテレビ報道番組「イット！」に出演、渋川へそ祭りにてゆかた踊りに参加したり、ＳＮＳにて活動の様子、公演の宣伝を投稿したりなど、若い世代へ伝統芸能への関心を持って貰おうと尽力しております。



渋川子ども歌舞伎

渋川子ども歌舞伎は、平成18年に「ぐんま子ども歌舞伎フェスティバル」の公演に向けて歌舞伎などの伝統芸能が盛んな地域である渋川市で募集された「子ども歌舞伎教室」が始まりです。教室に参加した子どもたちの「もっと歌舞伎をやってみたい」という声を受け、渋川市の伝統歌舞伎を次代に伝えられる後継者の育成とその振興を目指す団体として、平成19年1月に立ち上がりました。

ワークショップ講師

下南室太々御神楽講



渋川市北橘町下南室の赤城神社に明治時代から奉納されている神楽です。東京都御嶽神社から受け継いだ江戸神楽系で「式舞」と呼ばれる神事舞と、滑稽な仕草が取り入れられた「興舞」とで構成されています。式舞は７座、興舞は20座と演目が多いこともこの神楽の特徴で、職業神をたたえ繁栄を祈る舞がたくさんあります。なかでも「養蚕の舞」は長い間絹産業で栄えた群馬県を象徴する舞として平成24年に県の重要無形民俗文化財に指定されました。

行幸田甲波宿禰神社獅子舞保存会



令和5年に生誕250年を迎えました。明治42年4月17日に行幸田10社合祀により、現在の行幸田甲波宿禰神社の春祭りに奉納されるようになり、時には町内の辻々で舞役を交代しながら舞われてきました。戦後、中断していましたが消滅を危惧し、昭和47年10月に関口吉郎師範のもと中筋町の新人が舞の指導を受け、昭和49年2月24日に保存会を結成し、神社の春祭りに奉納の運びとなりました。これまでには、大正14年に靖国神社、昭和55年に伊勢神宮、平成3年に長野県諏訪大社へ奉納しています。昭和49年以後、毎年4月17日に近い日曜日に挙行される行幸田春祭りに「天下泰平、五穀豊穣、無病息災、疫病退散」を祈願し、行幸田地区の皆様が健康で穏やかに生活できますよう獅子舞を奉納しています。

常将神社太々神楽部



常将神社は約1000年前の千葉常将という人物をまつっています。現在の場所に神社が建てられたのは今から300年ほど昔と伝わっています。太々神楽は130年くらい前に途絶えてしまいましたが、今から100年くらい前に、広馬場の聖宮(ひじりぐう)神社の人たちから教わって、山子田地区の人たちが復活させたのだそうです。毎年春と秋に行われるお祭りで見ることができます。

津久田人形芝居操作伝承委員会櫻座



享保8(1723)年の古文書「八幡宮操人数覚帳」に、桜森八幡宮の祭礼で奉納するために氏子が始めたと記録にあります。人形舞台は文化8(1811)年の建造で、人形芝居と歌舞伎の両方で使われてきた県内最古の農村舞台です。人形芝居では、舞台中央の床の一部を引き下ろす「舟底式」と呼ばれる全国的にも珍しい構造の舞台を使います。人形舞台と人形の頭38体は、群馬県重要有形民俗文化財の第1号に指定されています。戦争の影響で中断する時期がありましたが、昭和26年に再興すると評判を呼び、その年に東京国立博物館に招待されて公演を行っています。次第に後継者不足となる中で、平成25年に津久田人形操作伝承委員会として広く県内から座員を募って活動を再開し、現在は地域の小中学校などで定期的に公演を行っています。